

2023年度（第22期）

通常総会報告

- 2023年度活動報告
- 2024年度活動計画
- 財政状況

2024年5月31日

代表理事 柴田憲男

2024年度を迎えて

おもしろ科学たんけん工房は創設から20有余年になります。

会員各位の意識の高さと活発な活動により、世間の評価が高くなっています。

一方、たんけん工房を取り巻く情勢は、少子化・高学年の多忙化、会員の意識の多様化と高齢化など、複雑に変化してきました。

これらの変化に着実に対応するため、会員の皆さんが持つ、知恵と経験を生かして、さらなる工夫と努力を続けていきましょう。

2023年度TOPICS

◆ 代表理事の交代

- たんけん工房創設以来工房を引っ張ってきた安田さんに替わり、柴田が新代表に就任しました。
- それに伴い、本部業務をいくつかのグループで分担する、「集団運営体制」が出来上がりました。

◆ 東京応化科学振興財団

- 10年連続して、東京応化科学技術振興財団の助成金を受けることができました。
- 加えて、同財団から、第1回「科学教育の普及・啓発助成団体表彰」の「優秀活動賞」を受けました。

◆ 準会員制の廃止

- 23年5月の総会に諮り、準会員制を廃止しました。
- 正会員として1本化され、初年度は会費免除としました。

2023年度活動報告

1. 体験塾

- おもしろ科学体験塾は184回と計画を上回りましたが、参加者は2,349名に留まりました。
- 1回あたりの参加人数は、計画の15名に対し、12.8名でした。
- 新しく始めた「出前体験塾」の実施回数は18回を数えました。

2. 出前塾・学校支援・特別教室

- 出前の要請は大幅に回復し、66回で参加人数は938名でした。
- 学校支援は、都合5校で実施し、参加人数は280名。
- 特別クラス（中学生対象の模型飛行機教室）は参加校が11校生徒は182名。

3. 低学年塾の新展開

- 当初計画していた4会場に加え、10月から富岡キッズクラブでも実施。
- 他のキッズクラブ運営団体からも問い合わせが続いている。

2023年度活動報告ー（つづき）ー

5. 行政、他の施設・団体の企画するイベント出展

- イベント出展は32回と、前年度の22回を大きく超えました。
- 夏の「青少年のための科学の祭典」の工房ブースへは、340名工作参加。
- 横浜市市民協働推進センターのワークショップは、220名が工作。
市とのつながりができつつあります。
- その他、藤沢や川崎でも依頼が増えています。

6. スタッフ養成研修

- 理科推進スタッフ体験講座は、例年通り横浜2回、藤沢1回の開催。
- 藤沢地区は8名受講で6名入会。横浜地区は都合23名受講し入会が15名でした。

2023年度活動報告—つづき—

7. 工具の使い方研修

- 2009年度にスタートしたこの研修も、参加者減のため今年度で終了。
- 来年度からは、一部を体験講座に組み入れ、会員向けの新たな工作研修を企画します。

8. 普及・啓発誌「たんけん通信」の発行

- 今年度から紙面を刷新しました。発行は年4回で従来通りです。
- 広報を担う手段の一つとして、更に内容を充実させて行きましょう。

9. 全体交流会

- 2022年に再開した全体交流会は、今年度参加者が100名を超えました。
- 新たに、Zoomでの中継も行い、18名が参加しました。

10. 川崎地区の新展開

- 念願だった、川崎市での体験塾が実現しました。
- 川崎地区の自立を目指し、会員の拡大、リーダーの掘り起しに努めています。

2023年度活動報告－運営体制の動き－

◆ 運営組織

- 代表理事が交代し、それに伴い、新たな運営体制を構築しました。
- 1年経って、各種業務が一巡し、前述の3グループが機能し始めた。
- たんけん工房の先行きなど、新体制の中で議論していきたい。

◆ 刷新プロジェクト

- たんけん工房の活動全体につき、改めて課題を整理しました。
- 2023年3月まで会合を重ね、運営会議に報告しました。
- ここで検討された「低学年塾」が実現の運びとなりました。
- 中高生向けの体験塾の実現性を「高学年プロジェクト」が模索中です。
- 刷新プロジェクトの最終課題であり難題でもある、組織と組織運営について、「法人としての『目的・使命～理念』＝ビジョンの見直し」をまとめ、運営会議に提出しました。

2024年度活動計画—基本方針と重点施策—

◆基本方針

- 地域社会の発展及び、子どもたちへの科学への興味の増進に寄与する。
- 理事・会員の協動的運営による、子どもたちとのより積極的な交流を図る。
- 会員の思いにも対応した、楽しい工房活動を目指す。

◆重点施策

- 「手軽に行けるところ、あまねく体験塾を」の実現。
- 体験塾への参加者を増やす諸施策の実施。
- たんけん工房への支援の輪を広げる活動の実現。

2024年度活動計画－事業の実施方針1－

◆おもしろ科学体験塾

たんけん工房の主事業として、

テーマ数・質・内容、会場数、参加者増の更なる向上を目指す。

- 今年度は、川崎開催も本格化させ、開催講座は200超を計画する。
- 参加者の幅を広げるため、小3親子ペア、保護者班を全地区で実施する。
- 「手軽に行けるところ、あまねく体験塾を」を出前体験塾も活用する。

◆低学年塾

- キッズクラブ等の実施団体とのコラボで実現、内容をさらに充実させる。
- さらに数団体から希望があるが、本業の体験塾の拡充にまず力を注ぐ。

2024年度活動計画－事業の実施方針2－

◆出前・イベント出展

たんけん工房の活動が、地域にも広く評価されている。

- 地域貢献のために、積極的にかつ余裕のある対応を図っていく。
- 地域の方々も、スタッフとして参加するよう声掛けをする。

◆学校支援

- 学校側からの依頼に対して、積極的に引き受けていきたい。
- 現在受けている科学クラブ支援等は、さらなる充実を心掛ける。

◆特別教室

「中学生のための飛行機教室」は、拡充の一途である。

- 今年度は、各学校ごとの分散開催も視野に入れる。

2024年度活動計画—事業の実施方針3—

◆新規展開

- 川崎市への展開を本格化させる。
- 藤沢周辺の都市への展開の芽を大事に育てていく。

◆新たなアプローチ

たんけん工房活動の更なる質的向上のため、新たな活動領域を模索していく。

- 中学生や高校生を対象とした科学塾の可能性の模索。
- 「大人の体験塾」の具体化の検討。
- 神奈川県周辺地区での体験塾の可能性の調査。

◆科学体験活動—スタッフ体験講座

- 藤沢地区：1回（定員15名）
- 横浜地区：前期・後期の2回（定員各30名）

2024年度活動計画—運営と経営1—

◆財政

体験塾参加者数の減少などの要因が重なっての赤字基調からの脱却。

- 前述のように、体験塾を拡充。
- 必要に応じて、体験塾参加費の見直し。
- たんけん工房への支援の輪を広げる。

◆会員間の啓蒙

- 会員間の交流を活発にする仕組み作り。「それもやってみよう」
- 入会早期から経験等を活かせる仕組み作り。夢を話せる場づくり。

◆主任の育成

- 主任の負担感軽減のため、新たな発想での取り組みを模索する。
- 新テーマの発掘は、組織的にも議論していく。

2024年度活動計画—運営と経営2—

◆ 情報・広報

- たんけん工房保有情報の保管手段の管理と仕組み作り。
- たんけん工房の活動内容の更なる発信力の強化。

◆ 後援

- 教育委員会の後援の承認は、社会的信用が大きい。
- 2024年度も、体験塾、体験講座（養成研修）の後援承認を得た。
- 藤沢地区も後援の承認を得ている。
- 川崎市へも後援申請中。

◆ 組織

新体制の下、皆で仕事を分担することにより、負担感が少なく安定した継承が可能な組織運営を目指す。

財政状況－2023年度の結果と2024年度の予算－

◆ 2023年度決算から

- 経常収益（収入）は750万円、経常費用（支出）が773万円23万円の赤字でした。
- 事業の健全性を示す事業収支差額は、139万円の赤字
- 主な要因は、体験塾参加者の減少による参加費の大幅な減収です。
- したがって、参加者を増やす施策と、支援者増の手当てが必要です。

◆ 2024年度予算作成に当たって

- 新年度は、体験塾の参加者を先期実績の13名弱から15名強に計画。
- 支援強化の施策も具体化させ、安定した寄付を期待しています。
- これらにより、収入は812万円、支出は前年並みとして785万円。収支差額は27万円の黒字を期待しています。
- 事業の健全性を示す事業収支差額は、50万円の赤字に圧縮されましたが、無理のない範囲で無駄のない支出を心掛けたいと思います。